中国支社 HIROSHIMA
〒732-0821
広島市南区大須賀町14番12号
第一ビル
TEL（082）263−5523　FAX（082）568−2927

西日本ネットワーク
中国・四国・九州・沖縄
JAPAN METAL BULLETIN Local Network

福岡支局 FUKUOKA
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前4丁目14番1号
深見ビル
TEL（092）472−3887　FAX（092）472−3888

商興定興 森島広

売上げ・加工20%増へ

建築中心に需要補足

【東広島】森定興商広島営業所（広島県東広島市、長岡信行所長）は今期（2014年3月期）の売上高と年間加工量をそれぞれ前期比20%ずつ増やす。主力商品であるコラムの夏以降の受注増が見込めるため、近く営業所に併設している中国流通センターの加工担当者を1人増員して4人とし、受注対応力を高める。建築向けを中心とする構造用鋼管や形鋼類の加工需要を確実に捕捉する。

広島営業所の営業エリアは岡山県を除く中国地方4県。コラムの足元の荷動きは落ち着いているが、引き合いは4月以降増えている。今後、各県で病院や学校、給食センターなどの新築計画が控えており、同社では主な販売先である2次流通業者への営業を強化する考え。中国地方だけでなく関西や四国、九州の同業との競争は厳しいが、サービスを向上させることで従来の顧客から新しい注文を引き出す。需要地だけでなく、エリア内のほぼ全域をカバーできる物流を生かし、新規の顧客開拓に向けた商品提案を積極的に進めていく。

今期は瀬戸内地区の造船やプラント向けのパイプ類販売が底堅く推移している。また、同センターでは新日鉄住金エンジニアリングの回転圧の鋼管杭「NSエコパイル」の先端部に、らせん形状の羽根を取り付ける作業も手がけており、今後の仕事量増が見込めるとする。

「リーマン・ショック後は厳しい販売状況が続いていたが、今期は下期以降、建築向けを中心に受注増加が見込める」（長岡所長）とし、早急に営業と加工の体制を整えて、繁忙期に備えていく考えだ。

広島地区

建築鋼材市況横ばい

荷動き低迷 価格転嫁が難航

広島地区の建築鋼材市況は横ばい。連休明け以降も荷動きは悪く、大きな変化は見られない。メーカーの大幅な値上げを受けて特約店は価格転嫁に取り組んでいるが、これまでに転嫁できたのは50%にも満たない。

足元の市中実勢価格は異形棒鋼がベースサイズでトン当たり5万7000−5万8000円どころ、H形鋼は7万1000−7万2000円、等辺山形鋼は7万3000−7万4000円、溝形鋼は7万3000−7万4000円どころ。4月中旬から価格転嫁が進まなくなっている。販売数量の確保を優先させる特約店の安値折り合いも散見される。

メーカーの値上げ幅は1−4月で1万−1万3000円。この間の流通の価格転嫁は半分以下の計5000−6000円程度にとどまっている。メーカーは原材料の鉄スクラップの高止まりや4月からの電気料金の引き上げで生産コストが上昇しているため強硬姿勢を崩していない。一方で需要家側は、建築・土木物件などの受注金額が上がらず、販売不振が長引いている建・産機業界は、生産調整で在庫整理が長引くなど価格転嫁を受け入れる環境が整っていない。建築現場での鉄筋加工や型枠加工など専門分野での人手不足が続いており、工期がずれ込む案件も出ている。「荷動きの回復を鈍らせる」（特約店）と懸念する声もある。

安倍政権の経済政策「アベノミクス」に対する期待が大きく、特約店は仕入れを増やしたが、荷動きが停滞しているため特約店の在庫が増えている。市中には値上げ後の玉が入荷しており、4カ月連続で仕入れ価格が上昇している特約店は価格転嫁を急がねばならないが、「需要の盛り上がりに欠け、転嫁するための決め手がない」（同）状況にある。今後も価格転嫁について難航が予想される。

鉄リ工業会 中四国支部

「秋には環境好転」

総会開催、50人が参加

平林支部長

【広島】日本鉄リサイクル工業会中四国支部は13日、広島市内で通常総会を開催、約50人が参加した。

冒頭、平林久一支部長（平林金属社長）は「韓国へのスクラップ輸出は厳しい状況が続いている。日本国内は少しずつ鉄鋼生産が回復してきた。夏以降、東日本大震災の復興にも手がつき始め、秋には今よりも鉄スクラップを取り巻く環境は良くなるだろう。ただ、足元は相場が少し弱い状況で4月から5月第2週まで2500円下がっているが、どのぐらいまで下がるのかが焦点になる」とあいさつした。

来賓の金村成健・日本鉄リサイクル工業会副会長（京阪メタル社長）は「2012年度は鉄スクラップ業界にとって厳しい1年だった。今から6、7年前は相場の値上がり、値下がりに関係なく、われわれは常に安定した収益を上げていた。取扱量の回復や増加が見込めない中、採算を重視し、量よりも質を求めていかなくてはならないだろう。採算改善の方策については地域特性などあるが、細かいことに鋭意努力していくことが必要。一緒にがんばって苦況を乗り切っていこう」と話した。

金村・鉄リ工業会副会長

集音盤

今こそ人材育成に力

「造船不況の影響で鋼材の取扱量が減少しており足元は厳しい状況にあるが、人材育成など業務の質を高める努力を継続し、業況が好転する時を待ちたい」と話すのは堀口勝哉・堀口海運社長。

同社は国内高炉メーカーの指定河岸として広島県呉市内の3カ所で鋼材の荷役保管業務を行い、2012年9月期の鋼材取扱量は主力の造船用厚板の落ち込みが影響し、前期比5・2%減の約55万8000㌧だった。今期はこれまで月平均4万㌧弱で推移しており、年間では50万㌧の確保が微妙な状況となっている。

昨年7月末からは呉市の公共ふ頭「阿賀マリノポリス」で韓国POSCOの運営委託を受け、同社製の造船用厚板の荷役、保管業務を行っているが、同所での月間扱い量は現在3000㌧で推移しており、量に変化はないという。

「リーマン・ショック直後は造船所が仕事量を確保していたため、扱い量はほとんど影響を受けなかった」という。「これまでにも造船不況は経験したことがあり、皆で力を合わせて乗り切ってきた。しばらくは我慢の時期が続くが、こういう時だからこそ、忙しい時にはできない人材育成に注力していきたい。社員には業務に必要な資格の取得や物流関連のセミナーへの参加などを勧めている」という。（中）

10日からの愛鳥週間に合わせて山口市阿知須の山口県立きらら浜自然観察公園で、野鳥写真展が開かれており、防府市内に本社を置く建設資材の販売施工大手、三友の綾目義一社長が猛禽類の「チョウゲンボウ」など5作品を出展している。

綾目社長

綾目社長は野鳥観察・撮影が趣味で、海外も含めて多くの野鳥を写真に収めている。先日も地元銀行の要請を受けて写真展を開いたが、今年で5回目となるきらら浜の写真展へも毎年出品し、その腕前を披露している。

綾目義一・三友社長

野鳥写真展に5作品出展

作品「チョウゲンボウ」

綾目社長が野鳥の撮影に興味を持ったのは8年前、近所の小川でカワセミを撮ったのがきっかけ。「小さな野鳥のヒスイのごとき美しい姿にすっかり魅了され、以来、週末にはカメラを提げてフィールドを徘徊する羽目になった」という。野鳥は警戒心が強く、動きも俊敏で撮影には苦労するが、「捕食の一瞬、着水、飛び立つ一瞬の姿は、生命力、気高さ、可憐さ、健気さなど魅力に溢れる。今後も野鳥観察を通じて自然と人間の関わり、ひいては環境問題により関心を持ちたい」と話している。

「山口県立きらら浜自然観察公園・野鳥写真展」は22人・99作品の出展で、6月9日まで開催されている（月曜日休園）。

福岡県建築鉄骨協議会

今年度初会合に45人

【福岡】福岡県建築鉄骨協議会（会長＝河野昭彦・九州大学大学院教授）は13日、福岡市のホテルセントラーザ博多で今年度初めての会合を開き、メンバーなど45人が参加した＝写真。

最初の議題では、会員の入会および変更が発表された。内田和弘・九州産業大学工学部建築学科教授が入会。また、日本建築構造技術者協会（JSCA）九州支部の役員人事が行われたことで、尾宮洋一氏と山下正吾氏から宮田俊英氏と福井弘之氏へと交代した。

その後、設立10周年を迎え、過去の活動状況を踏まえた今年度の事業活動が示された。

続いて、田中喜生・新日鉄住金九州支店建材室主幹が鋼材の動向について説明。このあと多田元英・大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻教授と橋田知幸・片山ストラテック株式会社橋梁事業部生産本部副部長兼大阪工場長が高強度鋼1000N級鋼の建築構造物への適用について解説した。

河野会長は冒頭で「国土強靭化などで建築鉄骨需要の増加が期待され、ようやく明るい兆しが見えてきた」とあいさつした。

同協議会は福岡県鉄構工業会、福岡県や福岡市、北九州市など行政担当者、福岡県内の各大学教授、日本建築構造技術者協会（JSCA）九州支部、鉄鋼メーカー代表、流通代表メンバーで構成している。

JFE福山

恒例フェスタに16万人

好天下、地域盛り上がる

開会宣言する渡邉所長

【福山】JFEスチール西日本製鉄所は12日、福山地区で恒例の「2013JFE西日本フェスタinふくやま」を開催、約16万人が来場した。「未来に向かっていきいきスマイル！」をテーマにさまざまな催しを行った。渡邉誠所長の開会宣言で開幕。4月の所長就任後、初めてのフェスタとなった渡邉所長は「今日は好天に恵まれ、朝からたくさんの方に来ていただいた。地域の盛り上がりに貢献できてうれしい」と喜んでいた。

会場には、同社やJFEスチールのグループ企業、町内会が飲食や生活用品の模擬店約100店を出店し販売するコーナーも設けられた。メーンステージでは歌や踊り、太鼓など多彩な発表があり、サプステージではダンスが披露された。地域対抗の綱引き大会やクイズラリー、フリーマーケットもにぎわいを見せていた。

熱延工場と形鋼工場の2コースで行われた工場見学会は親子連れなどで人気を集め、見学用バスの乗り場には長蛇の列が絶えなかった。工場では音や熱気に子供たちの歓声があがり、中には鉄について父親に熱心に問いかける子供の姿もあった。

親子連れでにぎわった工場見学

九州・中国・四国ステンレス流通

売上げ「横ばい」過半数

1−3月調査 在庫は増加傾向

九州・中国・四国地区の各ステンレス流通協会は「経営実態アンケート調査（2013年1−3月）」を実施した。売上高は前回調査と比べ、3地区とも「横ばい」が半数を超えており、前回調査と比べて一服感が出ている。

アンケート調査の回収率は九州が58・3%（前回54・2%）、中国が72・0%（同60・0%）、四国が66・7%（同56・1%）。

収益・採算性を見ると、「黒字」は九州で9・9㌽減、中国で4・4㌽増、四国で32・9㌽減。中国地区は黒字が増加したものの、「赤字」が12・2㌽増、四国地区は同20㌽増と赤字転落した企業が増えた。

在庫量は「多い」という回答が3地区とも前回調査時よりも増えている。今後の動向に注視が必要となりそう。

次期見通しについて、業界の景気は横ばいが3地区とも70%超。新年度に入り、季節要因として荷動きが停滞するとを予測している。このため、業績も「横ばい」が過半を占めている。

調査の主な内容と回答は別表の通り。

社史・団体史の発行をお考えですか？
個人史・書籍・単行本・記念誌・新聞・会社案内・カタログ・マニュアルなど
ご要望にお応えし、編集製作・印刷をお引き受けします。
お問い合わせ先 株式会社 産業新聞社 東京本社 TEL（03）5566-8777 大阪本社 TEL（06）6443-8551

3地区ステンレス流通協会1−3月経営実態アンケート調査

	地区	九州		中国		四国	
	対象社数	24	14	25	18	15	10
	回収率	58.3%		72.0%		66.7%	
売上高							
	a）増加	4	28.6%	2	11.1%	1	10.0%
	b）横ばい	7	50.0%	10	55.6%	6	60.0%
	c）減少	3	21.4%	6	33.3%	3	30.0%
		14		18		10	
収益・採算	（イ）今期						
	a）黒字	4	28.6%	8	44.4%	1	10.0%
	b）収支トントン	5	35.7%	3	16.7%	7	70.0%
	c）赤字	5	35.7%	7	38.9%	2	20.0%
		14		18		10	
	（ロ）前期比						
	a）良化	5	35.7%	4	22.2%	1	11.1%
	b）横ばい	6	42.9%	10	55.6%	5	55.6%
	c）悪化	3	21.4%	4	22.2%	3	33.3%
		14		18		9	
在庫量	（イ）今期末在庫量（ケ月）						
	a）1.0以下	1	7.7%	1	5.6%	1	10.0%
	b）1.1〜1.5	1	7.7%	9	50.0%	3	30.0%
	c）1.6〜2.0	4	30.8%	1	5.6%	2	20.0%
	d）2.1〜2.5	5	38.5%	3	16.7%	4	40.0%
	e）2.6〜3.0	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%
	f）3.1〜3.5	1	7.7%	1	5.6%	0	0.0%
	g）3.6以上	1	7.7%	2	11.1%	0	0.0%
		13		18		10	
	（ロ）今期末の在庫量は						
	a）多い	5	35.7%	4	22.2%	4	40.0%
	b）適量	8	57.1%	12	66.7%	6	60.0%
	c）少ない	1	7.1%	2	11.1%	0	0.0%
		14		18		10	
次期見通し	（イ）ステンレス業界の景気						
	a）良化	3	21.4%	3	16.7%	1	10.0%
	b）横ばい	11	78.6%	13	72.2%	8	80.0%
	c）悪化	0	0.0%	2	11.1%	1	10.0%
		14		18		10	
	（ロ）業績（現在と比べて）						
	a）良化	4	28.6%	4	22.2%	1	10.0%
	b）横ばい	9	64.3%	12	66.7%	8	80.0%
	c）悪化	1	7.1%	2	11.1%	1	10.0%
		14		18		10	

カラー鋼板は強横ばい推移

仕入れ高で先高観

広島地区のカラー鋼板市況は強横ばい。市中実勢価格はベースサイズがカラー大コイルでトン当たり22万7000−23万円どころ、小コイルで24万7000−25万円どころ。

メーカーは4月出荷分から、トン1万5000−2万円の大幅値上げの実施を表明した。段階的に引き上げる考えで、第1段階として5000円程度値上げし、浸透を待ってさらに上げるものとみられる。

市中では第一段階の値上げで先高観が醸成され、特約店の安値受注は姿を消した。2月は2・3次流通から先行手配や積み増しの仮需が発生したものの、3月と4月は「期待したほどの動きはなかった」（特約店）。今後、夏以降に動きが出てくるとみる向きが多い。

メーカーの値上げを受けて、特約店は唱えを上げ、需要家への説明に回っている。需要家からは「値上げはやむを得ない」との感触を得ている。特約店は値上げ後の玉の入荷が本格化する6月下旬以降に価格転嫁を進めたい考えだ。

新聞記事の複製許諾は本社IT事業局へご相談を
新聞記事は著作権法で保護されています。著作権者の許諾を得ていないコピー、パソコンへのデータ取り込みなどは違法となります。業務上、コピーや記事のクリッピングが必要な場合は、大阪本社IT事業局☎06（6443）8550にご相談下さい。

四国の鉄鋼相場　（単位：トン、円）
（5月15日現在、右は来週の見通し）

異形棒鋼（SD295、直送）		58,000	→
平鋼（6×50）		74,000	→
等辺山形鋼（6×50）		74,000	→
溝形鋼（6.5×75×150）		74,000	→
H形鋼（5.5×8×200×100）		71,000	→
大径角形鋼管・BCR（12×350×350）		87,000	→
角形鋼管（2.3×100×100）	黒	105,000	↗
	カラー	110,000	↗
軽量C形鋼（2.3×100×50×20）		93,000	→
中板	3.2（4×8）	65,000	→
酸洗鋼板	3.2（4×8）	68,000	→
冷延鋼板	1.6（4×8）	77,000	→
表面処理鋼板	1.6（4×8）	86,000	→
厚板　切板		88,000	→
縞鋼板	4.5（4×8）	88,000	→
黒ガス管	50A	125,000	→
一般構造用鋼管	48.6×2.3	130,000	→
ステンレス鋼板SUS304 ホットカットシート	3−6（18Cr−8Ni）	325,000	→
鉄スクラップ価格	H2　姫路	▼31,500	→
	H2　大阪	▼33,000	→
東京製鉄	岡山・陸　H2	33,000	→
	高松・陸　H2	32,000	→

※鋼材価格は置場渡し価格、鉄スクラップは購入価格
△は値上がり、▼は値下がり　毎週金曜日に掲載

ISO-9001 認証取得
三喜工業株式会社
〒808-0021 北九州市若松区響町1丁目110番2
TEL.093-751-3333
E-mail：sanki@sankiindustry.co.jp
FAX.093-751-3366
http://sankiindustry.co.jp/
営業種目
ショットブラスト　グリットブラスト　ショットプライマー
重防蝕塗装　特殊塗装　一般塗装
樹脂コーティング　樹脂ライニング（防蝕溶射）